

Transparent wood



ガラスとの相互作用によって、木質の厚みの可能性を広げ、透過性のある木質空間をつくりだす。

建築材料として木材とガラスが利用される時、木材は構造体として、ガラスは非構造体としてみなされている。

このことからわかるように、ガラスは建築において装飾的に扱われている。一方、木は柱のような太い部材から軽木のように薄くしたものであるが、建築においては厚みをもった部材をつかうことがほとんどだ。

このように、建築においては、それぞれの材料ごとに構造体になりうるかが判断され利用されてきた。

しかし、軽木のような薄い部材を建築に用いた場合、ガラスが木を支えるという状態も考えられる。

そこで、木とガラスが構造的に相互作用し合っている状態を考えた。

木に厚みがある部分では、木がガラスを支え、木が軽木のように薄い部分では、ガラスが木を支える構造となる。

ここでは壁の透明度によって領域がつくられ、家具が配置される。

壁面と開口。支えるものと支えられるもの。

それらを材料ごとに役割を当てはめるのではなく、とても小さな部分同士の関係によって考えてみた。

